

IPV被害妊婦への早期対応に向けた助産師のための教育プログラムの開発とその効果

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯島, 亜樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003364

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 26 号

IPV 被害妊婦への早期対応に向けた助産師のための教育プログラムの開発とその効果

(Development and effects of educational program for midwives on early response to pregnant victims of Intimate Partner Violence)

飯島 亜樹 (いじま あき)

博士 (看護学)

論文審査結果の要旨

Intimate Partner Violence (IPV:親密な男女間で起こる暴力)を受けた妊婦 (以下、被害妊婦) と接する助産師に対する IPV 教育は、机上や対面での知識教育に限られていた。研究目的は、助産師が被害妊婦への早期対応実践のためのオンライン教育プログラムを開発し、その効果を検証することであった。

方法は、第 1 段階で被害妊婦と助産師への現状把握調査により、支援を実践するには「IPV 被害妊婦の特定」と「初期対応」が重要であることを明らかにした。第 2 段階では、豪州で教育効果が保障されている教育プログラム (ANEW) を基盤とし、15 分 3 セッションの動画視聴と、被害妊婦との遭遇場面の事例を用いたオンラインによるディスカッションを開発した。そして、9 名を対象に前後比較によって効果を検証した。効果は、質問紙およびインタビュー調査で、助産師の被害妊婦への初期対応能力の変化、学習意欲の変化、教材の有用性について評価した。

結果として、介入後は介入前より助産師の『妊婦から IPV の手掛かりを得ようと意識して関わる』、『IPV 被害を受けている女性を特定する』、『妊婦が自身の問題について話すように促す』対応が高まっていた ($p<.05$)。また、IPV 被害妊婦の特定や初期対応に関するスキルの習得に有用であり、助産師自身の【IPV 被害妊婦への対応の自信】へと繋がっていることが示された。IPV 被害妊婦の早期対応にむけて助産師のために開発された本プログラムは、妊婦健診の場を活用して被害妊婦の特定と初期対応の実践に対し、効果をもつことが示唆された。本研究は、今後、助産師個人のみならず医療チームが IPV に対する共通理解を持ち、被害妊婦への支援システムを構築することに資する教材となる発展性のある研究であった。

よって、本論文は博士(看護学)の学位を授与するに値するものと判定した。